

## 令和7年度第2回一関市博物館協議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第2回一関市博物館協議会
- 2 開催日時 令和8年2月12日（木）午後2時から午後3時22分まで
- 3 開催場所 一関市博物館 研修室
- 4 出席者
  - (1) 委員 熊谷常正委員（会長）、砂金文昭委員（副会長）、  
亀谷琢委員、佐野修弘委員、千葉幸子委員、高橋あけみ委員、  
佐藤仁委員、千葉順子委員
  - ※ 欠席者 青沼徹委員、佐藤禎信委員、金野敬之委員、千葉信胤委員、  
菅原真利子委員、平澤広委員、森英隆委員
  - (2) 事務局 時枝直樹教育長、菊池勇夫博物館長、  
佐々木修路博物館次長、大衡彩織博物館副館長兼学芸係長、  
橋本美子博物館副館長兼庶務係長、  
相馬美貴子博物館主任学芸員、小味浩之博物館主任学芸員、  
椎野達也博物館学芸員

### 5 議 題

- (1) 令和7年度事業の取組状況について
- (2) 令和8年度事業計画について

### 6 公開、非公開の別 公開

### 7 傍聴者 なし

### 8 時枝直樹教育長挨拶

本日はお忙しい中、本協議会にお集まりいただきましてありがとうございます。また、博物館運営のみならず当市の教育行政あるいは市政にご協力とご指導いただき重ねて感謝申し上げます。

当市の現在の総合計画は今年度で終了することから、令和8年度から令和17年度まで向こう10年間の計画を作成し、それに基づいた様々な計画が作られたところであります。

教育につきましても、市の総合計画を上位計画として、教育振興基本計画を策定中であり、まだ案の状態ではありますが「郷土を愛し 自ら学び 未来を拓く 一関のひとづくり」を教育目標に挙げています。この背景には市の大きな課題の人口減少があり、担い手が少なくなるなかで持続可能な取組にしていくということから、学校だけにとどまらず、市民の皆様や将来を担う子どもたちが一関を好きになり、自分たちで郷土を作っていくという意識を持ってもらうための人材育成を基本目標に掲げたところであります。博物館はその目標を実現するために、社会教育の考え方としては

生涯にわたって学び続けられる学習環境を作っていくこと、地域文化との関わりとしては郷土の歴史や文化を身近で学べる環境を作り郷土への理解を深め、ふるさとへの愛着を持たせるというような取り組みが必要だと考えています。

今後の博物館事業については、後ほど会議の中で詳しく説明があると思いますが、展覧会については特別展「千葉胤秀生誕250年 和算の世界」を9月から11月にかけて開催、算額や数学模型など資料展示を通し当市で盛んであった和算の魅力について紹介し、2,700名以上の方に観覧いただきました。

企画展については、昨年1月から5月までの年度をまたいで「暮らしのなかの道具」を、また6月から8月にかけては「〇こけし店主Y氏の愛した昭和のこけしコレクション」をそれぞれ開催し、現在開催中の「村の学びと楽しみ一本寺肝入の蔵書から一」を最後に今年度計画している全ての展覧会は終了となります。

この他にも各種講座や体験学習などの教育普及事業を実施して、社会教育施設として市民への学ぶ機会の提供と学習の活動の拠点として支援してきました。

また、今年は骨寺荘園の始まりから900年に当たる記念すべき年となっています。骨寺を中尊寺の経蔵別当領とした荘園の始まりからちょうど900年に当たり、様々な記念行事を実施しているところでもあります。一関図書館では先月末から3月末までの間、特設コーナーを設けています。骨寺荘園室では、今週末の14日に一関保健センターを会場に骨寺荘園遺跡の発掘調査の報告会と講演会を開催し、中尊寺の執事長の菅原光聴様を講師に招きます。また博物館においても、翌日の15日に骨寺村荘園遺跡村落調査研究報告会を開催、また、現在特別展示として、駒形根神社境内から出土した鉄磬<sup>てっけい</sup>などの発掘成果を展示しているところです。本日の会議後に現在開催中の企画展の展示解説を行うので併せてご覧いただければと思います。

本日の会議では今年度の事業の取り組み状況、また次年度の事業計画について説明させていただきます。皆様から、本日もたくさん意見をいただき、よりよい博物館の運営を目指してまいりたいと思いますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

## 9 菊池勇夫博物館長挨拶

寒さも峠を超えましたが、本日はご多忙のところ出席いただきましてありがとうございます。また、これまで順調に活動を続けてこられたのも皆様の協力のお陰であると厚く感謝を申し上げます。

博物館事業の要は何といっても展示活動でありますけれども、今年度も特別展1回、企画展3回を実施いたしました。企画展「〇こけし店主Y氏の愛した昭和のこけしコレクション」では、伝統こけしの根強い人気、その面白さ、楽しさを少しばかりわかったような気がしました。「算額の世界」では、一関地方に和算を広げた千葉胤秀の生誕250年を記念しての特別展でございましたが、当館に寄贈された資料の

他に他の地域からも様々な資料をお借りして展示し、また講演会やシンポジウムでは数学者や小説家の方々等を招き、和算の歴史や千葉胤秀について存分に語っていただいたと思っています。和算の展覧会としては、おそらく全国的に見てもあまり例のない規模のものになったと思っています。なぜこの一関市に、和算が展開したのか、もちろん千葉胤秀のような算術家の活動があつてこそですが、それだけではない理由もありそうです。

現在、企画展「村の学びと楽しみ」を開催していますが、旧肝入家の蔵書を見ると、和算書などが含まれております。その他に料理書や漢学の書といった様々な蔵書があります。地域の文化力ということになるかとも思いますが、このようなところにも何かヒントが隠されているように思います。

会議後に展示資料をじっくりご覧いただけるとよろしいと思います。今年は骨寺村が成立して900年という節目の年を迎えます。骨寺だけではなく他の集落も同じような歴史の長さを持っているかと思われませんが、今回の企画展の展示品は新たに発見された江戸時代から明治期にかけての本寺に関する数百点に及ぶ資料群も含まれています。今後、目録作りや調査を通して骨寺900年の歴史がさらに解明されていくことを期待したいと思っています。

次に重要文化財の大槻家資料については、今年も文化の日に第2回の研究報告会を開催しました。大槻三代の業績は多岐にわたっており、研究者の研究分野も多岐にわたり、全国にいます。今後、研究報告会を定着させ、様々な角度から光を当てられたらと考えています。来年度も今年度と同様の回数・規模で企画展・特別展の開催を予定しています。内容は調整中ですが、大名の和歌に関するもの、熊野信仰、絵画の下絵に着目したものなど、この一関地方という郷土に密着した活動を行いつつ、全国にも発信していく館の活動になればと考えています。どのように発展させていったら良いか、忌憚のないご意見ご提言をこの場でお聞かせいただければ幸いです。

本日はよろしく願いいたします。

## 10 協 議

### (1) 令和7年度事業の取り組み状況について

資料「協議1」に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 子どもの利用状況や、子ども対象事業で力を入れたところ、子どもの反響があつた事業など、数字には出ない部分とは思いますが感じたことを話していただきたい。年齢別の調査は行っていないのか。

学校とは特別に何かやりとりがあるのか。あまり利用しない学校への対策は何か取り組んでいることはあるのか。

事務局 何年生以上対象といった事業については事前に学年を把握しているが、それ以外は特に把握はしていない。

市内の小中学校には、当館事業のチラシの配布やポスターの掲示などで協力をいただいている。例えば「和算に挑戦」では学校やクラス単位で応募してくれるところがある。

授業での博物館利用は、小学3年生が昔の道具について、小学6年生が日本史の歴史の授業が始まるので多いと感じている。

一般的な周知をしても遠い地域では足が向きにくいようだ。反対に近ければ利用があるかということ、そうとも限らない。

委員 小学校の授業で博物館を利用する場合、学芸員が何を話せばいいのかといった事細かな計画を立てなければならず、利用しにくいとの話を聞く。

小学3年生の昔の道具の授業に使えるようなプログラムを指導案レベルでいいので作ってもらい。学校に提案してもらえると学校でも利用しやすくなるし、学芸員の負担も小さくなり双方にメリットがあると思う。

会長 児童の輸送手段として、一関市はスクールバスを校外学習に使わせてもらっている。大変すばらしい対応だと思う。そうなると、博物館側の対応がポイントになってくると思うので、意見等を参考に検討していただきたい。

委員 博物館開館当初は博物館と学校との連携を進めるための会議を持ったことがあるように記憶している。そういった連携を今後考えられないか。

事務局 現在、社会との関わりは総合的な学習の時間で主に学習している。自分の住んでいる地域のことを調べるのが大きなところにはなるが、学校の教育計画で何を取り上げるか、地域学習を通してどんな力を付けたいかは学校ごとの考えを優先している状況にある中で、博物館を含めた文化施設との連携を考えていくという状況にあると思う。

委員 博物館のホームページを見ると、「和算に挑戦」について掲載されていて、全国から子どもたちを含め応募があるようだ。また、館蔵品の検索も充実している。Web関係の仕事は博物館そのものの活動に見られないことが多いが、仕事量は多いので、事業報告の中にWebのアクセス数等も入れていただきたい。

## (2) 令和8年度事業計画について

資料「協議2」に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 具体的な設備改修は決まっているのか。

事務局 展示室のスポットライトのLED化工事、電気設備の改修工事、空調関係の改修工事、屋根の防水シート改修工事の4つを計画している。

委員 東京にいる子どもから、何で田村藩の屋敷跡が東京にあるのかと連絡があった。旧一関市の子どもは田村家について触れる機会があるが、旧東磐井の子どもはほとんど機会がない。子どもたちに分かりやすく伝えられるよう、

絵本や紙芝居を作ってもらえないか。

会長 例えば水戸藩であれば黄門様、仙台であれば政宗公というように、近世城下には代表的な殿様や君主がいる。地域に若者の目を向ける取り掛かりとしての紙芝居や絵本を作成してはどうか。近世の一関の街並みやまち作りというなかで、きちんと検証しつつ、地域の理解を進めていくようなプロジェクトができないかということにつながってくるように思うので、考えていただきたい。

会長 一関の歴史は大槻家資料があり近代まではカバーしていると思うが、戦後の資料を体系的に収集する段階にきているのではないか。

アイオン・カスリン台風の被害や、その後の遊水地プロジェクト等の戦後を代表する様々な事件などを収集し研究すること、戦後80年で直接的に戦争を体験した年代の人たちは90歳以上になっていることなどから、戦後の資料の収集を計画に入れてほしい。また、今後の市の総合計画の中で、博物館がどう展開していくのか、数年間にわたる長期的な計画としての博物館の位置づけをきちんと盛り込み、近現代の資料の体系的な収集と研究を進めることを検討していただきたい。

委員 資料を残すことも大事だが、まちづくりに関わっていると、地域の伝統や風習がどんどん廃れていくのを感じる。それをどのように若い人に引き継いでいけばいいのか、そういったものも歴史のひとつとして、博物館だけでは難しいので、博物館が働きかけをしてくれれば残っていくのではないかと思う。

委員 今年度特別展で鳴海風先生の講演を聴講し、勉強になったし面白かった。新規講座はそれに繋がる内容にとらえたが、講演参加者や、紀行文に興味のある方、和算にとどまらない来館者が見込めると考えている。

また、企画展では熊野信仰で室根大祭について取り上げるので、特別展では旧西磐井の田村家、企画展は旧東磐井と、東西の歴史ある行事に関わるものが並ぶ。田村家関係は旧東磐井の方、室根大祭は旧西磐井の方でご存じない方がいると思うので、相互交流につながるようなPRができれば良いと思う。また、県内外にも一関の魅力を発信できる機会になると良いと思い、期待している。

### (3) その他

全体に対して意見等を求めた。以下、意見質疑等。

委員 博物館に来る外国人の割合は。また、外国人向けに工夫している表示等はないのか。外国人にも興味を持ってもらえるように、駅のホームなどに掲示物を置けば、一関の魅力が伝わるのではないか。

事務局 昨年から集計を取り始めたが、外国人の利用者は全体の1%くらいの状況にある。団体ではなく個人、または家族での利用だと思うが、1～2人での利用が多い。国は台湾等が多いように思う。

令和7年度の実施状況14ページにスマートフォンのアプリケーションを利用した展示解説の多言語化で、展示解説の一部を英語、中国語2種、タイ語の対応をし今月からアップしている。また、博物館正面の展示概要の看板なども外国人対応を徐々に進めていきたいと思っている。

11 pp 担当課 一関市博物館